



ENEOSグループ

資料 8

当社の都市ガス小売事業について

2025年10月7日
ENEOS Power株式会社



ENEOS Power株式会社

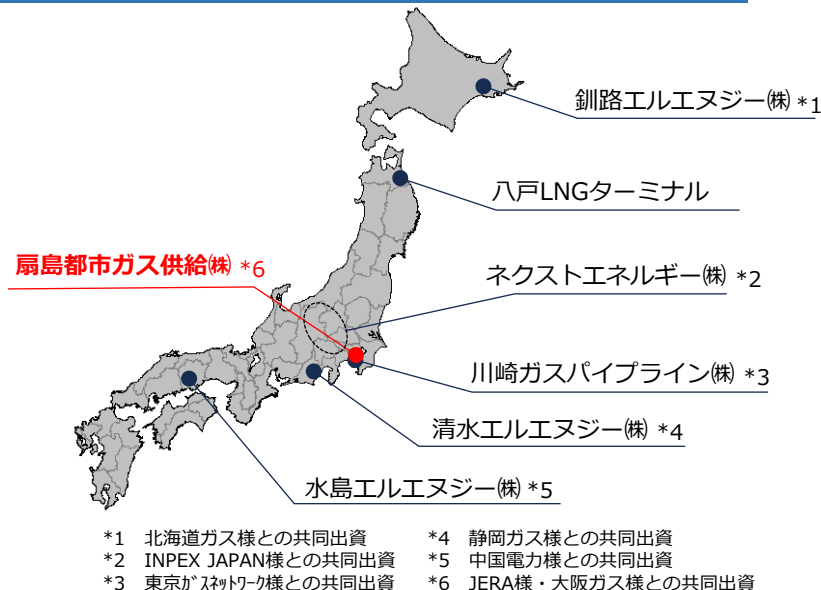
1. ENEOS Powerについて

- 2024年4月にENEOSホールディングス100%出資会社として発足
- 出資する扇島都市ガス供給(株)の製造する都市ガスを活用し、東京ガスNW・京葉ガスエリアで都市ガス事業を展開
- その他ガス事業（天然ガス開発、LNG調達、その他国内ガス事業等）はENEOS(株)・ENEOS Xplora(株)が所掌

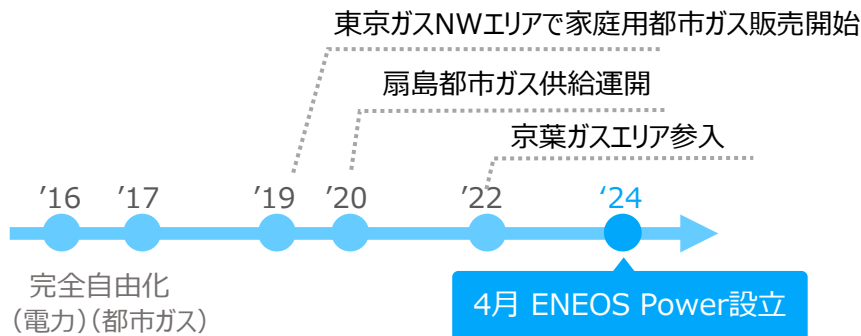
ENEOSグループ体制



ENEOSグループの国内ガス事業



都市ガス事業の沿革



【扇島都市ガス供給 熱量調整設備】



2. ガス自由化における課題

- 都市ガス小売事業は、電気小売事業と比較して参入事業者数が少ない（電力:約700社、ガス:約40社*）
- 保安体制や供給力の確保等において固有の課題があることが一因と思料

保安体制確保	・「ガス事業者間における保安の確保のための連携及び協力に関するガイドライン」では、大規模災害時に、公共の安全維持、二次災害の防止、都市ガスインフラの早期復旧のため、ガス小売事業者と一般ガス導管事業者（東京ガスNW等）が一体となって災害対応するよう定められており、ガス小売事業者は、災害時に供出する要員を確保する必要がある ・電気小売の場合は、事業参入エリアにおいて必要最小限の人員配置（例：営業担当のみ配置）で事業展開可能だが、都市ガスの場合は保安要員および大規模災害要員として相応の人員を配置する必要があるため、人的コストの観点から他エリアへの事業展開は難易度が高い
未収閉栓	・マンションのオートロックによりメーター場所への入館が出来ないことを理由に、ガス料金未収の際の閉栓（解約）が出来ない顧客が一定数存在する ・上記は、ガス業界共通の課題と認識している。先般、置き配普及のため宅配事業者が開錠できる仕組みづくりを政府が後押しする旨報道されているが、本件も併せて解決のための後押しをお願いしたい
供給力の確保	・関東エリアにおいては競争力ある供給力を確保済みである一方で、他エリアへの参入にあたっては、各エリア毎に競争力のある供給力を長期安定的に確保する必要がある。相対仕入よりも自社供給力の方が競争力があるが、他エリアで自社供給設備を保有するのは困難 ・LNG基地の第三者利用は利用実績が極めて限定的（2件）であること、スタートアップ卸については利用上限量が限定的であること等、相対調達に競合相手との交渉となることから、競争力のある供給力を確保するのは難易度が高い

*一般家庭へ供給している事業者（①旧簡易ガス形態のみの事業者、②旧一ガス・旧簡易ガス事業者のうち他エリアに参入していない事業者および③旧一ガスの事業譲渡を除く）